

令和５年度 第１回国立市文化財保護審議会 議事録(要旨)

1. 日 時 令和６年２月１５日（木）午後２時から
2. 会 場 国立市役所３階 教育委員室（後に旧本田家住宅復原等整備工事の現場に移動）
3. 出席者 白井委員、佐伯委員、和田委員、杉田委員 馬場委員
玉蟲委員(ZOOM)、長田委員
[事務局] 井田課長、大西係長、清水職員、萩原職員、由良職員

4. 内容

【議題】

（１）前回審議会議事録について

前回審議会議事録の説明をし、確認された。

【報告事項】

（１）東京文化財ウィークについて

事務局より資料に沿って説明が行われた。国立市の文化財のPRについて、国立市指定の文化財について東京都作成の文化財カードと同じようなカードを東京都に作成依頼をかけて同時期にPRしてはどうか、企画事業で作成した展示物資料を国立市のホームページに掲載してはどうか等の意見が出された。

（２）旧日本興業銀行クラブハウスについて

事務局より資料に沿って説明が行われた。今後維持していくのが難しいかもしれないので、記録をしてほしいとの所有者さんからのご依頼であったが、実は白井会長がかなり前に詳しい調査をしていることがわかった。当時より、現地保存は難しいという感触はあるが、当時を知る上で市にとっても都にとっても貴重な建造物であることから、記録保存以上の保存の方法を検討してほしい等の意見が出された。

（３）旧中本家住宅（芸術資源館）について

事務局より資料に沿って説明が行われた。建築した所有者の死後、2021年に財団として建物を維持活用してきたが、その財団から財団の活動の励みにしたいということから、市登録文化財（建造物）にできないかという相談があった。

委員からはセルフビルドに近い建物というところも面白いし、子どもたちの居場所づくりの事業にも貢献しているし、登録候補で良いという意見が多数あった。次回の審議会で見学を予定することとなった。

（４）旧本田家住宅について

事務局より資料に沿って説明が行われた。建物の基礎工事において掘削される部分の埋蔵文化財調査報告を行った。特にドマ周辺から、胞衣皿や瓶等の埋納儀礼が発見されたこと、また、半地下空間における石組みのカマドが検出、そのカマドの覆土からは江戸時代中期の遺物が出土したことを、写真や当初想定間取りと遺構配置図を重ねた図面を見て頂きながら報告、説明した。カマドの位置が当初建物の西の壁のラインにかかっていることから、カマドは、建築的視点では幕末頃使われていたのではと考えられ、考古学的視点からは、カマドがいつ頃使われていたものか更に検討したい旨、お伝えした。

（５）その他

以前より予定している、「旧国立駅舎内の木製改札の取り扱い」について白井会長の講演会の日程調整を今後調整する。福祉の先生の内容の講演会から時間も経っているので、講演会事前に委員会の考え方の方向性も事前に確認した方がいいのではないか、との意見も出された。

○次回の文化財保護審議会日程については、後日日程調整することとした。